

第 5 8 号
2023 年 3 月 31 日



埼玉県合唱連盟
〒330-8557 さいたま市浦和区常盤4-12-13
(朝日新聞さいたま総局内)
TEL 048-824-8161
FAX 048-831-5310
<http://saicl.net/>

SAITAMA CHORAL NEWS パウゼ

Pause

～彩の国から8団体出場！～

第75回 全日本合唱コンクール全国大会

2022年10月29日(土)・30日(日) 高等学校部門(A・B)・中学校部門(混声・同声)

於：青森県青森市/リンクステーションホール青森(青森市文化会館)

11月13日(日) 小学校部門(第4回全日本小学校合唱コンクール全国大会)

於：大阪府堺市/フェニーチェ堺

11月19日(土)・20日(日) 大学職場一般部門(大学ユース・室内・同声・混声)

於：三重県津市/三重県総合文化センター三重県文化会館大ホール

【高等学校部門Bグループ】

松山女子高等学校音楽部

部長 古井向日梨



銀賞

ただ綺麗なだけではなく、聴いてくださる人を本当に感動させられる演奏がしたいと、私たちは日々練習を重ねて参りました。時にぶつかり合い、話し合いを沢山行い、私たちがひとつとなるには時間がかかったけれど、そうした時間があったからこそ、本番も納得のいく演奏が出来たのだと思います。結果は銀賞と、金賞に届くことはできず非常に悔しい思いをしましたが、その後たくさんの方々から温かいメッセージをいただき、改めて本当に多くの方が私たちのことを応援してくださっていることを実感しました。

コンクール運営に携わってくださった方々、そして日頃応援してくださる全ての皆様への感謝を忘れず、これからも日々精進して行きたいと思ひます。

埼玉栄高等学校コーラス部

部長 大森 桃弥

副部長 若杉 心晴



銀賞

この度は第75回全日本合唱コンクール全国大会において銀賞をいただくことができました。去年、全国大会まであと一步のところまで届かず非常に悔しい思いをしました。今年はリラックスして自由に表現することを目標とし、人数の少ない中どうしたらより良い演奏ができるかを皆で話し合ってきました。今回はラテン語の曲ということで歌い方を工夫するために動きをつけて音楽の流れを意識し、音読やリズム読みを繰り返し行いました。先輩方の気持ちを受け継ぎこのような賞をいただけて、応援してくださった先生方や保護者の皆様には感謝の気持ちで一杯です。

これからも埼玉栄高校コーラス部としてさらに精進していけるよう部員一同頑張っていこうと思ひます。

浦和第一女子高等学校音楽部

部長 松谷 祐花



銀賞

全国大会では、課題曲として「寂庵の折り」を、自由曲として土田豊貴先生による委嘱作品である「夢の手」を演奏いたしました。

日々の練習では、仲間と共に自分たちの音楽を追求することで、歌うことの喜びをより一層感じることができました。そして全国大会本番では、その喜びを胸に演奏し、全てを出し切ることができました。高い目標を掲げながら部員全員で努力した時間は、何にも代え難いものとなりました。また、この大会を通して、他校の皆様の演奏から多くのことを学ぶことができ、大変貴重な経験をさせていただいたと感じております。

これからも支えてくださる方々への感謝の想いを忘れずに、向上心を持って活動して参ります。



【高等学校部門Bグループ】

叡明高等学校合唱部

部長 難波明日佳

この度は埼玉県の代表として全国大会に出場させていただきましたこと、部員一同嬉しく思います。新型コロナウイルスが猛威を振るうようになって3年目、世の中は少しずつ以前の生活を取り戻しつつありますが、私たちにとっては一番辛い状況でした。部員のコロナ感染、濃厚接触該当者が相次ぎ、何度も大会参加が危ぶまれました。全員が揃っての活動が満足にできないなか、皆で意見を出し合い、オンラインで活動を行うなど、これまで培ってきた経験を基に、できることに精一杯取り組みました。大会直前、ようやく部員全員が集まることが叶いました。最初こそごちない演奏でしたが、すぐに皆の息が合い、本番に向けて気持ちを高めていくことができました。

そして迎えた本番。離れていても心は1つになれる。しかし、やはり皆が集まって演奏できる喜びは何ものにも代え難いことを改めて実感した瞬間でした。

今回の危機的状況の中、全国大会で演奏することができたのは家族をはじめとする関係者の方々の協力のおかげです。また、開催にご尽力くださった全日本合唱連盟、埼玉県連の皆様にも深く御礼申し上げます。



銅賞

【中学校部門 混声合唱の部】

さいたま市立宮原中学校合唱部

顧問 松澤 孝

3年ぶり2回目、混声の部では初の全国大会出場でした。コロナ対策をしながらの練習や大会では、部員数が多い為、宿や新幹線、ホールがなかなか取れず、旅行会社や色々な方から温かい支援をうけて行くことができました。3年生は1年の時ほとんど活動ができない年で、昨年度は制限付きでの活動となり、本格的な活動は今年度初めてとなりました。大会ごとに上達するのが分かり全国への切符を得ることができました。全国大会前日、青森市立浪打中学校の体育館で寒い中、集中しイメージした練習や、当日朝、海岸での発声練習を行い会場入りしました。本番は程よく緊張感を持ち楽しく歌うことができ、今までの中で一番良い演奏をすることができました。

今回は、生徒共々とても貴重な経験をすることができました。埼玉県・関東支部・全日本合唱連盟、支援していただいた方々に感謝とお礼を申し上げます。



銀賞

【小学校部門】

さいたま市立指扇北小学校合唱部

顧問 安藤 恵

さいたま市立指扇北小学校は、第75回全日本合唱コンクール全国大会に出場させていただきました。美しいハーモニーが作れるように、発声練習の中にいろいろな音程の動きを使ったハーモニーを取り入れたり、歌詞の理解を深めるために歌詞に合わせて芝居をしたり、多方面から曲にアプローチして向き合ってきました。1つの曲を深く掘り下げて練習して創りあげる難しさ、楽しさ、奥深さを知ることができました。響きのよい大きなホールで歌い、「自分たちの歌声がホール全体に響いているのが分かって、とても気持ちがよかった」と児童は嬉しそうに話しておりました。今後も聴いてくださる方の心を動かせる歌を創りあげていきたいと思っております。



銀賞

【大学職場一般部門 同声合唱の部】

男声合唱団 Le Terre

代表 杉本 滉歩

この度、男声合唱団 Le Terreは第75回全日本合唱コンクールに出場させていただき、銀賞を受賞いたしました。大会関係者の皆様、応援してくださった皆様に感謝申し上げます。弊社創設から7年、念願であった関東、全国大会へはじめて出場することができ、団員一同大変嬉しく思います。小野瀬先生の指導のもと、高校時代に培った基礎と、卒業後それぞれが歩む道の中で得た新たな知見が上手く化学反応を起こしてくれたように思います。課題曲、自由曲共に「和」のおもしろみと美しさ溢れる曲に取り組み、今までにない団としての「色」を存分に出すことができました。最高に楽しい舞台となりました。

改めまして、大会に携わる全ての皆様に深く御礼申し上げます。



銀賞

【大学職場一般部門 混声合唱の部】

scatola di voce

団長 近藤 恭奈

当団は今年で創団20周年を迎えます。私達も例に漏れずコロナ禍という大きな壁に直面し、様々な試行錯誤を繰り返しながらも何とか活動を続けていくことができました。いつの間にかメンバーの顔ぶれも、初の40代の団員から創団の年に生まれた団員まで、非常に幅広くなりました。

そんな中、再び戻ってきた全国大会の地は、競い合うというよりも、同じコロナ禍を乗り越えてきた同志を称え合うような、温かい空気に包まれていました。私達も歌う喜びを噛み締めながら、今できる最高の演奏を披露することができたと思います！

様々な検討を重ね、安全に大会を運営してくださった合唱連盟の皆様、日々応援して下さる皆様に深く御礼申し上げます。



銀賞

撮影：スタッフ・テス(株)
大阪フォトサービス(株)



〔埼玉新進音楽家シリーズ〕

第31回朝日作曲賞受賞 根岸宏輔さんにお聞きしました!

Pause第50号では、埼玉県出身の若手作曲家である川浦義広さんを紹介し好評をいただきました。埼玉県合唱連盟としてこれからも埼玉県出身の音楽家を紹介していきたいと考えております。本紙では本庄市出身であり、第31回朝日作曲賞を受賞され音楽界で注目を集めていらっしゃる新進気鋭の作曲家、根岸宏輔さんにインタビューをすることが叶いました。根岸さんの合唱に対しての想いや作曲についての考え方など大変興味深い内容となりましたので、ぜひご覧ください!

音楽とのかかわりと作曲家としての歩み

私と音楽とのかかわりは、幼少期に習い始めたピアノから始まります。モーツァルトやベートーヴェンのような調性やリズムが明瞭なピアノ曲に対しては難しいという印象があり、もっと自由にピアノを演奏するために自分で音符を書いていた時期もありました。音楽をつくる自由な世界への潜在的な憧れが作曲への道を拓いたのかもしれない。

そのような中で、進路選択の時期にたまたま訪れた日本大学芸術学部のオープンキャンパスが非常にユニークで面白かったことがきっかけとなり、音楽への道へ進むことを決めました。

声への興味、そして合唱作品へ

朝日作曲賞を受賞した作品は、実は私にとって初めての合唱曲でした。初めての挑戦でしたので、合唱界の流行や作品の傾向などはよくわかっていませんでした。ただ、人の声への興味は以前から自分の中にあり、特に声の不安定さに魅力を感じ、器楽の曲に「声」を取り入れる試みをしていました。そういう意味では、声への興味が拡大したようなイメージで、抵抗なく合唱作品の作曲にも取り組むようになったと言えるかもしれません。声は形がはっきりしていない、揺れやすく、不安定なところが非常に魅力的で面白いです。

私が詩を選ぶときは「直感」です。全体をさっと読み、言葉遣いや長さ、そしてこのテキストが何を表現しているのかを感じることをしてから、細かい分析に入っていきます。

作曲という行為とは?

作曲を中心に活動をしていて、楽しい瞬間は、「終止線を



上から 南方事務局次長
左下から 小野瀨理事長、根岸先生
小林副理事長

引いた瞬間」です。そこからは作品が私の手を離れていきます。実は「こう演奏してほしい」という強いものではなくて、演奏者が演奏しやすいように演奏することが1番よ



くなると思っています。作曲をする時には、基本的に大幅に書いたものを消したりすることはなく、書いたものは使っていくスタンスです。終止線を引いた後は、見直したり改訂を希望したりすることはほとんどないですね。ただ今回の『智慧の湖』の最後の部分に関しては最初ffで書いていましたが、ppにどうしても変えたくて変えたことを思い出しました。

(根岸先生の作曲ノートの一部を見せていただきながら)

まず、ノートに線を引いて、何分何秒までに音量が増えるとか、最後はコーダで終わるなど、セクションごとに細かく全体の構成を作ってしまう。そこに音を入れていくイメージですね。その過程でオノマトベ的に言葉を用いた(ツツツツとか、ポワンポワンなど)書き込みをしていくことも多いです。

最近では、メロディなどを創り始める前に詩に書き込みをして構成を決めていきます。私は、旋律を書く以前に、コンポジション=構成させるということ作曲という行為の中で強く意識しています。自分が表現したいものを表現し、そこに数人でも共感してくれる人がいたらいいな、というスタンスです。今回のコンクールでは、様々な団体の演奏を聴く機会があり、多様な解釈が見られて本当に面白かったです。

今後に向けての活動については、とにかく何でも書いてみたいです。小さい子どもたちへも女声コーラスも。どのような方が対象であっても自分の個性を出していきたい、壁を作りたいかと思っています。

~ありがとうございました~



プロフィール

1998年埼玉県生まれ。第37回現音作曲新人賞(併せて聴衆賞)、第31回朝日作曲賞(合唱組曲)、2021年度武満徹作曲賞第1位を受賞。第32回芥川也寸志サントリー作曲賞ノミネート。日本大学大学院修士課程修了。

インタビュー：理事長 小野瀨照夫、事務局次長 南方 隼紀
文責：事務局次長 南方 隼紀
同席：副理事長 小林とせ子
撮影：埼玉県合唱連盟

～3年ぶりに秩父に集う！～

彩の国男声コーラスフェスティバル2022

2022年10月1日(土) 於：秩父宮記念市民会館

10月1日(土)、秩父宮記念市民会館において実施、2年連続で実施できず残念でしたが、やっと実施することができました。

フェスティバル合唱団指揮・講評講師に武田雅博先生、ブロック合同演奏指揮・講評に松原真介支部長・玉川昌幸副支部長。県内外より12団体をお迎えしての実施となりました。

初めて使用する会場、施設も新しく駅近ではありましたが、まだコロナ禍。座席はひとつつ空け、客席での歌唱も禁止、楽しみな懇親会も残念ながら無し。なかなか厳しい条件でしたが、ブロック合同演奏、フェスティバル合唱団、さらに「良かったで賞」「気

になったで賞」「いい味出していたで賞」「嫌いじゃなかったで賞(大好きだったで賞)」等、楽しい賞も沢山。盛り上がりました。

なお、今回をもって関東との共催は最後となりますが、今までのご協力に感謝いたします。これから埼玉単独になっても益々楽しい行事にしていきたいと思っています。

あくまでも予定ではありますが、次回は9月24日(日)桶川市民ホールを検討しています。皆様方のご参加をお待ちしております。

(常務理事 蓮沼 喜文)



達成感は格別です



講師の武田先生



♪源兵衛さんの赤ちゃんが～
オギャー オギャー



フレイフレイ秩父!



「いい味出していたで賞」
おめでとう!!



大いに盛り上がりました



徐々にみんな集えて嬉しかったなあ。
ベテランも新人も若者も、みんな歌える男声合唱。
本当にいいものでなあ。





男フェスに出演して

〈良かったで賞〉

in high glee

代表 柳嶋 耕太

普段は東京で活動している私たちにとって、今回の出演は初となる「遠征イベント」でした。外のものである私たちにこのような機会を作ってください温かく迎えてくださったこと、さらに賞までいただけたこと、改めて感謝に堪えません。

男声合唱部出身で、ドイツ指揮留学中も男声合唱団で歌っていた私としても、埼玉の男声合唱がこんなにも活気溢れるものであることは心が震えるほどうれしいことです。そして断言できることは、この男声合唱の響きがまとう独特な高揚は、それが秩父であってもドイツであっても全く同じように素晴らしいということです。この文化がずっと受け継がれるよう、音楽家として一層頑張らねばと励まされる素敵な一日でした。

なお、副賞でいただいた1升のお酒は、上尾にある某メンバー宅でパーベキューしながら飲み干しました!!



〈気になったで賞〉

Il Campanile

団長 宇佐美平和

本当に“久しぶり”に舞台上に立ち、合唱できたことがなんとも嬉しかった。

フェスティバルの数日後に、断捨離のために昔の写真を見ていたら、「おとうさんコーラス大会」の写真が出てきた。当時のことを思い出した。舞台上で歌ったことより、野外でビールを飲みながら大騒ぎしたことがなんとも懐かしく浮かんできた。肩を組み、お互いのジョッキからビールを飲み「いざ立て」を歌ったシーン、どこかの団体の応援団の素敵な女性と一緒に撮った写真、泊まった旅館から見えた花火、県・関東と場所は違えど、歌い飲み仲間と肩を組んだことは一冊のアルバムに収まっている。このアルバムは取っておこう!



〈いい味出していたで賞〉

所沢メンネルコール

団長 猪股 英行

とても愉快な一日でした

トコメンの人数は20名チョットでしたが、第35回定演で歌った「群青」を披露しました。団内指揮者の三宅さんのもと、全員が気持ちを合わせて演奏できました。出来映えは最高で、「いい味出していたで賞」を受賞しました。武田雅博先生による講評のトップに「ピアニスト、素敵な音色でした!!」とあり、合唱については「誠意ある音楽作りに共感します!」と書かれています。岩佐先生によるいつものご指導の成果をかなり発揮できたものと思います。副賞に頂戴した「秩父錦」は、別途全員で味わいました。

秋晴れの中とても愉快な一日になりました。こういうことがあるからやめられませんね。トコメン万歳! コーラスフェステ万歳。これからも元気に頑張ってください。



〈嫌いじゃなかったで賞 (大好きだったで賞)〉

男声合唱団オールアリオ

団長 伊藤三津夫

2020年初頭からの新型コロナ感染拡大により、弊社もしばらく活動休止に追い込まれ、その後練習を再開しても以前より出席する人数も減ってしまいました。そのような中、3年ぶりに彩の国男声コーラスフェスティバルに参加することができ、加えて「嫌いじゃなかったで賞 (大好きだったで賞)」をいただきました。演奏曲の「合唱のためのコンポジションⅢ第3楽章引き念佛」は、60年前に作曲された曲なので、若い方たちには古臭いと聞こえたかもしれませんが、審査員の先生方には久しぶりの懐メロだったのが受賞理由ではないかと愚考しています。数少ない演奏機会を得て、主催の埼玉県合唱連盟をはじめ関係者の皆様に深く感謝申し上げます。



撮影：埼玉県合唱連盟



～通常開催に向けての第一歩～

第 34 回

埼玉ヴォーカルアンサンブルコンテスト

2023年1月15日(日) 小学校の部・中学校の部

於：久喜総合文化会館

1月21日(土) 高等学校の部①・ユースの部

1月22日(日) ジュニアの部・高等学校の部②・レディーの部・一般の部

於：響の森 桶川市民ホール

皆様、コンテストお疲れさまでした。コロナ渦に入り3年間が経過しようとしています。当時は、暗く、先の見えない合唱界に、「1人1人の合唱への希望の光を集めて、歌声を取り戻そう」とするとともに前向きな演奏が聴けたことにとても感動をいたしました。

今年は、録音審査団体がなく、「全てステージ演奏」という大きな一歩を踏み出せたコンテストでもありました。やはり、ホールいっぱい響く歌声は感動しますね。

運営側としては、「合唱の灯を絶やしてはならない」「歌声で合唱の光を取り戻そう！」と理事長のスローガンのもと、手探りで何とかここまでたどり着き、昨年より落ち着いてコンテストの運営ができたのではないかと思います。また、中学校の部では全体での表彰式を行うことができ、久しぶりの歓声が聴けて大変嬉しく思いました。

演奏側としては、練習が途中で止まったり、様々な要因で練習に参加ができなかったり練習過程で納得のいかなかったことがあったかもしれません。今は、「できる範囲で最大限のことができた」と思えば大成功です！結果は気にせず、楽しむ心を忘れずに、アンサンブルを楽しみましょう。



また、部門によって様々な練習事情等もわかり、特に中学校では短い時間の中で練習をしていただけていることや、高等学校の部ではコロナ等により練習ができない等様々なご苦勞があったかと思えます。部活動運営など様々な困難があるかとは思いますが、ぜひ諦めずに合唱を楽しみましょう。そして、「合唱は楽しいぞ！」と全世代、全部門の皆様伝えて、合唱の輪を広げていってください。

また、係員に入ってくださいました方々に、改めて深く感謝を申し上げます。

参加団体数は「小学校1団体・中学校28団体・高等学校52団体・ジュニア4団体・レディー4団体・一般13団体」と幅広い世代の参加をしていただきました。来年も皆様の元気な歌声が聴けることを楽しみにしております。(常務理事 清野 将平)



みんな頑張ったね！



ドキドキの瞬間



ご来場ありがとうございました！

撮影：スタッフ・テス株

福永一博先生に聞く !!

～埼玉ヴォーカルアンサンブルコンテストを振り返って～

福永先生には3日間にわたり全部門を審査委員長としてご審査いただきました。今回のインタビューではSVECについてのみならず、示唆に富むお話を沢山伺うことができました。

佐々木) まずは全部門について講評をいただけますでしょうか？

福永先生) 埼玉県の合唱についていつも感じることは、歌心がある団体がとても多いということです。一人一人の歌心を感じながら聴かせていただきました。良い意味で音楽的に真面目。それは楽譜に対するアプローチやハーモニーやリズムから音楽を形作ろうとする姿勢に表れています。素晴らしいことだと思います。

初日の小・中学校の部について審査員のなかで話題になったのは、音楽の流れについてです。シラビック(拍節的)になってしまった団体が多かったように思います。特に8分の6拍子の扱いが難しい。作曲家は子守唄、風や波の揺らめき等を表現するために8分の6拍子を用いることが多いですね。大きな2拍子を円で捉えていく感覚がもっと一人一人にあると良いなと感じました。単なる8分音符の連続になってしまうと音楽の流れが止まってしまう。練習の時に実際に体を動かし揺らしながら練習し、拍節感を意識することも重要でしょう。音の立ち上がりのタッチのスピードに律動感が表れて、音楽が同じ方向に流れていくようになると思います。

2、3日目の部門に関しては「曲の本質を掴む」ということを意識してほしいと感じました。難しい曲であればあるほど音程やリズム、ハーモニーを整えることに囚われるあまり、「結局この曲って、どんな曲なのか?」「作曲家がどんなことを伝えたくて生まれたものなのか?」「面白さがどこにあるのか?」が見えなくなってしまいます。例えば楽譜に〈giocoso〉と書いてあるのに全然楽しそうではなかったり…。それって曲の本質に大きくかかわってくることでいいですね。音程やリズムが正しくても〈giocoso〉が伝わらなかつたら意味がありません。

難しい曲であればあるほど、その本質に立ち返る必要があると思います。一番大事なものを見失わないようにしましょう。そうすれば「リズム」は「律動」に、「ハーモニー」は「色彩」に変わっていくと思います。

佐々木) 連盟としては今回初めて桶川市民ホールを利用しました。

福永) ここはとても響くホール。少人数でもアンサンブルしやすい反面、声が飽和しやすい空間でした。いつもの練習会場に

比べると本番のホールではアーティキュレーションや子音がどうしてもボヤけてしまいます。その対策として、練習室という空間においての最良の発音やアーティキュレーションを実現して満足するの

はなく、ホールの響きを想像して様々な条件にも対応できるような訓練を指揮者の先生と一緒に常日頃から行う必要があると思います。「練習室での今の響きは、ホールではきっとこのように響くだろう」そんな想像力を働かせて取り組めると、初めて演奏するホールでも普段と同じ音楽ができると思います。普段と違う環境のなかでは、自分の身体で覚えている音を自覚的に発する訓練をしていないと「いつもの」演奏はできませんよね。普段やっていないことは本番もできませんから。

高等学校の部は、良い声の団体が多いですね。一方で良い声と良い響きで曲を「塗りつぶしてしまっている」という印象も持ちました。和声の翳りや、母音による色彩の変化やフレーズの持っている多様性を演奏にいかしたいですね。良い声、良い発声、良いポジションが至上命題になってしまうと大事なものが聴こえなくなってしまいます。もちろん良い声の団体が多いということは本当に素晴らしいことです。さらに先に進むために敢えて申し上げました。

ユース・ジュニア・レディ・一般の部については先に申し上げた「曲の本質を掴む」を特に強く感じました。

最後に全体について更に申し上げれば、もっと耳を開いて、もっとハモって欲しい。「そこそこハモる」で満足して欲しくない。合唱は「ハモってなんぼ」ですよ。「そこそこハモる」は「そこそこハモっていない」と同義で、力のある団体なのにハモっていないグループが多いと感じました。自分が声を出すことに精一杯になってしまっている。自分が歌うことに意識の全てがいてしまうのではなく、常に自分の声への意識を「7」に抑えて、残りの「3」の余裕を周りの声を聴くことに回さないとアンサンブルを高いレベルではできないと思います。

佐々木) 「ハモる」のために私たちがすべきことで最も大切なこと何でしょうか？

福永) 「聴く」しかないですね。テクニックと言うよりも「互いに聴く」しかないと思います。そしてハモった時の気持ち良さは、音楽的な経験値には関係なく、人間が根本的に持っている喜びなのだと感じる人が多いです。「なんか今気持ち良かったよね」の体験が大切です。

佐々木) 本日は私たちの活動にすぐに活かせるアドバイスを沢山頂戴いたしました。

福永先生、誠にありがとうございました。

今回は、紙面に載せきれなかったインタビュー内容を、「拡大版」として埼玉県合唱連盟ホームページに掲載いたしました。右のQRコードから、どうぞご覧ください。



インタビュー：常務理事 佐々木憲二
同 席：理事長 小野瀬照夫
撮 影：埼玉県合唱連盟

※敬称は省略させていただきました。



左から 佐々木常務理事、福永先生
小野瀬理事長



ママリン♪

第46回全日本おかあさんコーラス埼玉県大会

(第48回おかあさんコーラス埼玉県大会)

2023年3月4日(土)・5日(日) 於：和光市民文化センター サンアゼリア

3月4日・5日、和光市民文化センターサンアゼリア大ホールにて、第46回全日本おかあさんコーラス埼玉県大会が無事開催されました。昨年度の出演団体数は36団体、本年度は45の団体が参加してくださいました。コロナの時期をそれぞれの団の皆様が色々な想いで乗り越え、手に手を取り合いながら合唱の灯を絶やさず守ってこられたのだなあと、心からの敬意と感動を感じるステージとなりました。特に初出場団体のアナウンスが会場に流れると、温かい拍手が起こった場面が印象的でした。

上田真樹先生、武田雅博先生、三宅悠太先生に、関東支部大会推薦団体の選考にご協力いただくと同時に、素敵なお講評を直接お話しいただけたことも、久しぶりの感動となりました。非日常に誘うステージ衣装を身にまとい、仲間と表現した音を聴衆に届ける。そこで初めて音楽となる。そして素晴らしい講師の先生方から直接ア



ドバイスをいただける。コロナ前には当たり前であったことが、こんなにも有難いこととは…。辛い経験が

大切なことを教えてくれますね。

選考により6団体、抽選により7団体、合わせて13の推薦団体が決定いたしました。選ばれた合唱団の皆様が、埼玉の代表として、関東支部大会の会場に豊かに響くことをお祈りしております。



小野瀬理事長挨拶

プログラムには、創立〇〇年目とのコメントが多く、長い年月仲間と指揮者との繋がりを大切に、生活の励みとして合唱を楽しんでこられた演奏に多くのことを教えていただいたように感じます。

招待演奏の彩の国プラチナ混声合唱団（人数が多く2グループに分けて演奏していただきました）の大人の表現も大変説得力があり感動いたしました。

コロナの時期を乗り越え、春の芽吹きとともにたくさんの仲間と歌う喜びをシェアしていきましょう。来年のおかあさんコーラス大会でも、多くの皆様と一緒できることを心より楽しみにしております。

(常務理事 竹下由布子)

【講師の先生方 アドバイスをありがとうございます♡】



《上田 真樹先生》 ～伝わる表現の仕方を工夫して！～

コロナ禍で長い間、歌うことが難しく大変だったと思いますが、この様に多くの方が集まって歌えることがどんなに幸せなことか、皆さんの表情・歌声を通じて、ひしひしと感じました。

これからはグループの中で楽しむだけではなく、聴いてくれる人に何か伝わるような表現の仕方を工夫するとより良いですね。同じ曲でもグループによって表現の仕方が色々と異なります。お互いに聴き合い、意見を寄せ合うことで皆さんの音楽がより豊かになると思います。



《武田 雅博先生》 ～千の曲から選んで～

選曲は「千の曲から選ぶ」というぐらい大事です。先ず、自分たちの「得意と苦手」を自覚しましょう。苦手な曲に挑戦するより、自分たちが今まで培ってきた「音楽的貯金」をいかに有効に使うか。「投資よりも使う！」です。おかあさんコーラス大会の選曲は難しくなくて良いんです。それがおかあさんコーラス大会の特徴ですね！次回の出場の時には、自分たちの良さを最大限に活かして、楽しめる選曲をしてください。そのためにはたくさんの曲を知っていることが大切ですね。合唱祭や仲間の演奏会で、たくさんの曲を聴いてください。



《三宅 悠太先生》 ～視線＝声の方向～

声は基本的に視線の方向に飛んでいきますので、皆さんが大好きな指揮者の先生 (!) のところに響きが常に集まりがちです。楽曲のシーンに応じて、ときには「先生離れ」して客席へ届けるようにすると、音楽がよりダイナミックに広がり人に伝わるものになると思います。昨今、部活動地域移行やコロナ禍等により、子どもたちの合唱現場が縮小傾向です。演奏を聴きに行き応援したり、支援したり、合唱文化を支えるチームとして、ぜひ次世代へのバトンについても考えてくださったら嬉しいです。

編集：理事 浅子 元
撮影：スタッフ・テス株

～久しぶりの衣裳を着て…みなさんへインタビューしました～



いただいた感想・・・

久しぶりのヒールで心配もあったけれど大丈夫でした！
ドレスのサイズが・・・大丈夫でした！！
マスクとドレスの色をお揃いしてみました～
以前はスカートの衣裳でしたが、着替えず出演できるように
パンツに変えました



こんな感想も・・・

緊張しました やっぱり気持ちがいいな～
喜びを味わいました 歌えて嬉しかった
歌えて良かったです
客席にお客さんがいるのはいいですね！
緊張と同時に「気合い」が入りました
ホールの響きを味わいながら歌えました
楽しくて興奮してしまいました
歌えることに嬉しさを感じました



写真撮影・インタビューを引き受けてくださった団体の皆様
ご協力ありがとうございました

インタビュー：理事 須藤るり香
撮影：埼玉県合唱連盟



第 12 回

関東ヴォーカルアンサンブルコンテスト

2023年3月11日(土) 高等学校部門

12日(日) 小学校・中学校部門、一般部門

於：埼玉県／和光市民文化センター サンアゼリア



松原支部長挨拶

第12回関東ヴォーカルアンサンブルコンテストが3月11日・12日の2日間、和光市民文化センターで開催され、関東9県から高校41団体、小学校・中学校27団体、一般18団体がそれぞれの持ち味を活かした演奏をされました。

今回は、より以前の大会と同じような形での開催に近づけようと、演奏中のマスク着用はそれぞれの団

の判断で構わないこととし、表彰式もマスク着用の中、入場制限なしで従来通りに行いました。

埼玉県からは、高等学校部門に9団体、小学校・中学校部門に5団体、一般部門に4団体出場され、下記の通り、大変優秀な成績を収められました。

今回の大会は、どの部門も大変レベルが高く充実した演奏が続きましたが、特に一般部門の充実には目を見張るものがありました。全体講評の中でもありましたが、「審査員泣かせ」の部門となったようです。また、高校、一般部門では団員同士でコンタクトを取りながら、指揮者をおかずに演奏する団体がいくつも見受けられました。

全体講評の中から、いくつか取り上げてみますと、高校部

門の講評で、「アンサンブルコンテストと夏のコンクールの違いはなんだろうか?」「アンサンブルとは?」というような問いかけが審査員からありました。もちろん、ここには答えはありませんし、それぞれの団での捉え方があるかと思いますが、もう一度それぞれの団で考えていただくことは、各団の合唱活動に幅をもたせることとなるように思います。

また、小中学校部門では、レパトリーについてお話がありました。数多くの合唱作品がありますが、コンテストとなると一定の曲を取り上げることが多くなってしまいかと思います。ご多忙の中でのご指導かと思いますが、ご自分の団にあった更なる作品選びをしていただければと思います。

来年の関東大会は2024年3月9日(土)10日(日)の2日間、栃木県宇都宮市の宇都宮文化会館で開催されます。次回も埼玉県勢の活躍を大いに期待しております。



(副理事長 國弘 雅也)

撮影：スタッフ・テス(株)

第12回 関東ヴォーカルアンサンブルコンテスト審査結果

2023年3月11日(土) 高等学校部門

12日(日) 小学校・中学校部門、一般部門

於：埼玉県／和光市民文化センター サンアゼリア

高等学校部門

【金賞】星野高等学校音楽部B、栄東高等学校コーラス部、埼玉栄高等学校コーラス部A、叡明高等学校合唱部女声、星野高等学校音楽部A

【銀賞】埼玉県立松山女子高等学校音楽部、埼玉栄高等学校コーラス部B、埼玉県立川越女子高等学校音楽部

【銅賞】さいたま市立浦和南高等学校音楽部

小学校・中学校部門

【金賞】栄東中学校コーラス部、上尾市立上尾小学校合唱団、蕨市立第一中学校音楽部

【銀賞】川口市立西中学校音楽部、所沢市立南陵中学校合唱団

一般部門

【金賞】mugs (支部長賞)

【銀賞】Paradise Relax

【銅賞】Ensemble SAKAE、男声合唱団 LeTerre



Tact vol.33



指揮者 浅井 一郎

たくさんの出会い

合唱好きの両親の影響もあり、川越高校に入学した6月、陸上部から音楽部に転部したのが合唱の始めでした。実は、川越女子高校との合同練習が楽しみでした。高2の時に小高秀一先生が着任され、熱心なご指導を受け、より男声合唱にのめりこんで行きました。そして学生指揮者になれたのが、指揮のスタートでした。その後、高校の教員を目指す礎になったように思います。大学浪人中からは東京で石丸寛先生の合唱団に所属し、多くの演奏会を経験し、様々な場所で第九の合唱に参加できました。20代の頃は川越牧声会やイル・カンパニーレで歌う他、ポウリングやファミレスでの語らいも楽しかったです。

教員のスタートは川口工業高校で、年の近い生徒と楽

しく一緒にの時間を過ごしました。また、教員2年目より36年間、県合唱連盟の役員をさせていただけたのも一生の財産です。2校目は、母校の教師になる夢が叶い川越高校で11年間、時に夜遅くまで生徒と語らい、関東や全国各地で演奏できたのも、懐かしい思い出です。3校目の行田進修館高校（現 進修館高校）では合唱部を作り、女声合唱を行う一方、よくお菓子パーティーをしました。2005年には1年間長期研修として、佐藤真先生のご指導のもと、東京芸術大学で広く音楽を学ぶ機会を得ました。パッハカンタータクラブにも所属し、より高いレベルで学生と共に音楽活動に励みました。高校総体の仕事を経て現在の不動岡高校では、素直で向上心を持った生徒たちと、混声合唱に勤しんでいます。また、大人の合唱では母が代表の合唱団の指導で経験を積み、行田市での第九指導が縁で発足した行田フロイデは、創立20年を超えました。公民館のコーラスでは人生の先輩方と歌う喜びを共にしています。川越の女声合唱団ラ・シレーヌでは、向上心を持った同世代の仲間とやり甲斐を持ち活動しています。

合唱を通してたくさんの出会いがありました。関わり方は様々ですが、これからも心踊る楽しく美しい合唱を目指し、歩んで行きたいです。それを支えてくださる合唱連盟の皆様や加盟団体の皆様の益々のご発展をお祈りいたしております。



たまりん♪グッズ

❖新作❖できました!!



キーホルダー

トートバッグにつけても可愛いです
600円

冬バージョンに
続く第4弾
春バージョンです♪
200円



クリアファイル



トートバッグ

楽譜もペットボトルも
入っちゃいます！
レッスンバッグにどうぞ♪
1,500円

商品情報は埼玉県合唱連盟ホームページ「たまりん♪の部屋」からもご覧になれます。右のQRコードから直接「たまりん♪の部屋」にアクセスできます。(たまりん♪チーム)





私たちの場所

Stage



開智未来中学・高等学校コーラス部

副部長 吉野喜恵 顧問 大澤優貴

目指すのは単なる「上手い合唱」ではなく、自分たちにしかできない「心からうたえる合唱」。少人数ながら中高一緒に楽しく活動しています。少ない時間で密度の濃い練習を行い、常に主体的な活動を意識しています。童謡やCMソング、オリジナルソングなど様々なタイプの曲に挑戦中。踊ったり、絵を描いたり、パペットを使ったり、ペンライトを使ったりと、表現力が豊かになるような工夫を凝らし、従来型の型にはまらない活動を追求し続けています。

内面から湧き上がる気持ちを身体全体で表現したい。

温かくて味のある歌を聴く人の心に響かせたい。

そんな熱い思いを胸に、世界中の人々に歌声を届けられるようこれからもがんばります！



コール萌

代表 唐牛礼子

結成37年になる女声合唱団のコール萌です。川越・高階公民館で18名の幅広い年齢層のメンバーが毎週火曜午前楽しく練習しています。結成10年目頃、団の存続の危機に立たされた時、指導をお願いしたのはまだ藝大学生だった奥村さゆり先生でした。以来、ソプラノ歌手としても活躍されながら、私たちに発声の基本から言葉の発し方、1つの曲を仕上げるまで細かな技術を分かりやすく教えてくださいます。

合唱祭のステージを目標にレパートリーを少しずつ増やしています。これからも心身ともに若々しく元気に合唱を続けていきたいと思ひます。お仲間をいつでも募集していますので、未経験者の方も大丈夫、お待ちしております。

女声コーラス秋桜

代表 大橋良子

昭和61年の秋、荒川の土手に秋桜の花が咲き乱れている頃誕生した“女声コーラス秋桜”です。その後、県合唱連盟に加盟し、多くの発表の場もいただき40数名の仲間たちと意欲的に活動を続けて参りました。37年が経ち、最近はこのままではなかった体調の変化や世の中の状況による団員の入れ替わり、また、創立以来の中心的メンバー2人との別れもあり、心に穴が空く喪失感を味わってしまいました。そんな中でも、風に揺れる秋桜の花のようにしなやかに、されどたくましく根を張って立っている私たちでありたいと思っております。そして、年齢を重ねて得た経験を生かし、心に響く詩を伝えられるよう、素敵な仲間たちと目標を持って楽しく歌っていきます。

埼玉県立熊谷高等学校音楽部

部長 井田慎也

私たち熊谷高校音楽部は、現在部員7名で男声合唱に取り組んでいます。主な活動として、夏の熊谷女子高校との合同定期演奏会や、年2回行われる熊谷の市民音楽祭があります。また、地元の演奏会にも数多く関わらせていただき、昨年はオーケストラとの共演やオペラへの参加などの貴重な経験ができました。

このように、私たちの最大の武器は、さまざまな経験から培われた表現力です。また、少人数ということを生かし、一人ひとりが歌詞の意味について主体的に考え、納得のいくまで議論し合うことも大切にしています。

以上のような環境と武器を最大限に生かして、お客さんの心に響くような演奏ができるよう、これからも精進していきたいと思ひます。



埼玉県合唱連盟公式

Twitter

Facebook



編集 後記

Pause第58号をお届けいたします。全日本合唱コンクール、男声コーラスフェスティバル、SVEC、おかあさんコーラス埼玉県大会の特集と各インタビュー、新進音楽家シリーズなどの内容です。今後も皆様の豊かな合唱ライフをお手伝いします。(理事 浅子 元)



GOOD DESIGN AWARD 2022

11 作品 同時受賞 20年連続受賞

この街に住み、この街をつくる。 私たちはポラスです。



ポラスの分譲住宅 Q

ポラス株式会社 埼玉県越谷市南越谷1-21-2 TEL:048-989-9119

住まい価値創造企業

POLUS ポラスグループ